

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

クリスマスの意義

12月25日：

「この世を罪から解放する全人類の救い主がお生まれになった」ことを覚える日

「全人類の救い主」とはだれか：

ヘブル人（ユダヤ人）のメシヤ、イエス・キリスト

教会とは：

キリストによる救い、一罪の赦しと永久の生命— を信じる者の群れ

クリスマスの歴史

太古から人々、光、生命、熱の源として太陽を神として崇拝

「冬至」（12月21/22日）が過ぎた直後は祝祭にふさわしい時節

①冬至祭「ユール」：

暖炉に丸太を焼べて思い起こした「太陽神タンムズ」の死

「ユール」はカルデア語で「幼児」

②ローマ神話の神サトゥルヌスの祝祭は12月17日からの七日間

常緑樹とローソクでの飾り、贈り物の交換、家族、友の集まり楽しむとき

③12月25日は、イランの「光と契約の神」ミトラの誕生日

⇒教父テルトゥリアヌス（二世紀）、ミトラ教は、サタンがクリスチャンを惑わし、神から引き離すために生み出した異端であると述べた

④皇帝アウレリアヌス（三世紀）、12月25日を「無敗の太陽の誕生日」—神々の祝祭—に制定

⇒今日、数えきれない異教の神々はすべて忘れ去られ、残っているのは、イエス・キリストを祝う日としての「クリスマス」だけ

ヘブル語聖書に記されたメシヤのご降誕

→ 4 預言の成就

エデンの園で与えられた最初の預言：「女の子孫」 創世記3：15

神の選びの民に対するサタンの攻撃の始まり

サタンに支配された者（反キリスト）とメシヤとの戦いの究極は、反キリストの滅び

イザヤによる預言：「見よ。処女がみごもっている」 イザヤ書7：14

「インマヌエル」と名づけられる男の子、メシヤ

ダビデ王家のメシヤの系図にかけられた「血の呪い」 エレミヤ書22：24-30

逆説的に、メシヤの「聖霊によるご降誕」を確証

メシヤ、ダビデの子ナタンの系図、—母マリヤの系図— からご降誕

新約聖書が証するキリスト

初めから存在しておられた方 ヨハネ1：1-3

受肉 ヨハネ1：14

最後の勝利の騎手 黙示録19：11-16

後に来られる方 黙示録1：8、4：8

聖書

→ 5

成就した諸預言

- | | | | |
|---|------------|---|------------------|
| 1. キリストはおとめから生まれる | イザヤ書7:14 | → | マタイ1:18-25 |
| 2. キリストはベツレヘムで生まれる | ミカ書5:2 | → | マタイ2:1-6 |
| 永久 <small>とこしえ</small> の神のご計画の下、人類の救い主、ユダヤ人のメシヤの到来は、 初めから 定まっていた | | | |
| 3. キリストはエジプトに行く | ホセア書11:1 | → | マタイ2:15 |
| 4. キリストは病人を癒し、健全にする | イザヤ書53章 | → | マタイ8章 |
| 5. キリストは十字架にかけられる | 詩篇22:14-17 | → | マタイ27:31 |
| 6. キリストは私たちの罪のために死ぬ | イザヤ書53章 | → | ヨハネ1:29、11:49-52 |
| 7. キリストは死人から甦る | 詩篇16:10 | → | マタイ28:1-10 |

マタイ1:18-2:23

→ 2 神の視点からの先立つ備え

キリストのご降誕

【1】おとめマリヤ、聖霊により受胎 1:18-25

系図の背後の重要な二つの掟

- 1) 「兄弟の妻との結婚の義務」の掟
申命記25:5-6、家督相続のため、夫の兄弟との結婚
- 2) 「娘の養子縁組で家督相続」の法的認可
—モーセの掟の例外規定— 民数記27:1-11

⇒ この特例、キリストの系図を正当化

ヨセフ、養子縁組でダビデの子ナタンの血筋のヘリ（マリヤの父）の系図に連なった

⇒ すべての詳細に、いつもイエス・キリストに焦点を置いた意識的なデザイン！

18-19節 ヨセフ、マリヤを姦淫に対する処刑、「石打刑」から守るため、離婚を決意

→ 姦淫に対する裁き レビ記20:10、申命記22:22-23、
私的解決：離婚状 申命記24:1

21節 「イエス」：

「ヤーウエは救い」の意 ギリシャ語「イエスース」、ヘブル語「ヨシュア（イエホシュア）」

⇒ 神の民「イスラエルの家の失われた羊」の救いのために、メシヤご降誕の告知、

まず、ベツレヘムの「羊飼い」に ルカ2:8-18

23節 「インマヌエル」：

「神は私たちとともにおられる」の意 イザヤ書7:14

20-25節 ヨセフ、主の御使いの啓示により、マリヤとの結婚を確信

聖書

洗礼者ヨハネとキリストの誕生日

ヨハネの母エリサベツはマリヤのいとこで、祭司ザカリヤの妻 ルカ1:13
 ザカリヤの奉仕順は、二十四組に分けられた神殿祭司の「アビヤの組」 歴代誌第一-24:10
最もつじつまの合う見解：
 —キリストのご降誕日は多くの推量が可能、その一例—
 ザカリヤの任務は3BCE、7月13日に終了 ルカ1:8-10
 ヨハネの誕生、—ゼカリヤへの御告げの二百八十日後とすれば— 2BCE、4月19/20日
 皇帝アウグスト、14CE、8月19日に死亡、その年、テベリオが皇帝に即位 ルカ2:1、3:1
 ヨハネ、「**皇帝テベリオの治世の第十五年**」にミニストリー開始 ルカ3:1
 ヨハネの三十歳の誕生日は、29CE、4月19/20日、その年の「**逾越の祭り**」の日
 御使いガブリエル、マリヤに現れ、受胎告知 ルカ1:24-38
 キリストのご降誕日、—マリヤがエリサベツを訪ねた二百八十日後であれば—
 2BCE、9月29日、その年の「**ティシュリの月**」の初日、「**ラツパの祭り**」の日

【2】三人の東方の博士（マギ）の来訪 2:1-15

マギ

ペルシャ起源の語のギリシャ語翻訳 “μάγοι (マゴイ) ”、ラテン語翻訳 “*Magi*” 「マギ」
 ネブカデネザルの王宮のマギの長 エレミヤ書39:3、:13 「**ラブ・マク**」 “מַגֵּי”
 ダニエルの称号 ダニエル書4:9、5:11 「**呪法師の長**ペルテシャツアル」 (下線付加)

メディア・ペルシャ (ペルシャ) のマギ

占星術ではない「夢占い」に卓越、その高い学識と名声で、信望厚かった 『ヘロドトス』
 「夢占い」：ダニエル以降、夢の解き明かし、メディアの王宮で公認
 アケメネス朝ペルシャのダリヨス一世 (大王)、国家宗教として樹立

マギの宗教とユダヤ教

ペルシャのアケメネス朝時代のマギの混成宗教と、ユダヤ人の宗教には多くの共通点
 ペルシャ、メディア・ペルシャの歴史では、貴族、大臣、助言者の多くがユダヤ人
 アケメネス朝の時代の王たちの何人かも明らかにユダヤ人の血筋

政治的背景

中東一帯の支配権の推移：バビロン→ペルシャ→ギリシャ→アレキサンダーの四人の将軍
 (エジプトのプトレマイオス朝とシリアのセレウコス朝)
 ペルシャとユダヤ人国家、アレキサンダー大王の死後、セレウコス朝の支配下に置かれた
 プトレマイオス朝とセレウコス朝との闘争の緩衝地帯イスラエル、メシヤご来臨前の
 「暗黒の四百年間」は、旧約時代から新約時代への遷移期 ダニエル書に詳細な記述
 この間、3C BCE半ば~1C BCE半ば、ヘブル語聖書のギリシャ語翻訳「LXX」、編纂
 セレウコス朝の衰えとともにペルシャ人独立、「**パルティア帝国**」台頭 (250BCE)
 マギ、宗教、政治、司法権を行使、行政長官上院を構成、支配領域の王の選択、任命権を所持
 古代帝国パルティア：今日のイラン、アフガニスタン一帯

聖書

ローマ帝国の台頭

1C BCEの半ば以降、パルティア、ローマは二大列強
ヘロデ大王の生涯、ユダヤは両列強の緩衝地帯

ヘロデ王とマギ

1BCE頃、ヘロデ、死に至る病の終わりに近づいていた
皇帝アウグストは高齢、ローマはティベリウスの引退後、
経験を積んだ軍事司令官に欠き弱体化

パルティアにとって、ローマの属州、緩衝地帯のユダヤ
への新たな侵略の機は満ちていた

当時流布していた「メシヤ預言」、マギの野心、一ユダヤ侵略と新しい王擁立— を動機づけた



1節「東方の博士たち」：

4BCE～2BCE頃（最近の考証：2BCE）、エルサレムに突然マギが現れた
—おそらく騎兵隊に護衛されての豪華な行列で—

列強に挟まれた緩衝地帯イスラエルで、王座をкаろうじて維持していたヘロデには脅威

2-3節「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか」：

王位を買収で獲得、ローマ帝国の認可を受けて「ユダヤ人の王と称していた」
エドム人（イドミヤ人）ヘロデ に対する、計算された侮辱

5-6節「ユダの地、ベツレヘム」：

マギ、ミカの預言を引用 ミカ5：2

7節「星の出現の時間」：

メシヤ誕生を告げる天のしるし、マギがエルサレムに現れる一年以上前に現れた

このしるしがマリヤ、ヨセフ、幼子おきなごが移り住んでいた「家」（2：11）までマギを導いた

マギの贈り物

1. 神性を象徴する「黄金」
 2. 祭司職を象徴する「乳香」：「供えのパン」に混ぜられた
 3. 幼子の死を象徴する「没薬」：砕かれると香りを放ち、埋葬の香油として用いられた
- ⇒ これらすべては、「祭司、預言者、王なるキリスト」を象徴

9節「星」：ルカ2：8-18

1. 超自然現象、「特別な場所にとどまった“シェキナ（神の栄光）”」
2. バラムの預言の成就か？ 「ヤコブから一つの星が上がり」（民数記24：17）

パレスチナで羊飼いが野宿をするのは晩秋までで、キリストのご降誕は真冬ではあり得ない

12節 夢の解き明かしの専門家マギ、夢を通して受けた神の警告に従って帰国

【3】ヘロデによる、ベツレヘムと近辺での男児虐殺 2：16-18

マギ、エルサレムからベツレヘムに向かい、星が上に留まった家を探しあて、メシヤを礼拝
おそらく、この日が伝統的にイエス・キリストの誕生日とみなされた12月25日、クリスマス
⇒キリストのご降誕を祝う贈り物を互いに贈り合い、また、貧しい人たちを顧みる慣習が定着
マギが東の国へ帰ったことを知ったヘロデ、大変動揺、星の現れた時期から、メシヤの生まれた
日を割り出し、「ベツレヘムと近辺の二歳以下の男の子」の虐殺を命令

聖書

→**4** 預言の成就、**8**

マタイ、キリストによる「象徴的意味の具象化」を暗示

マタイ、15節で、キリストがご自分の行為によって預言を成就されたことに言及

ホセア書11：1「イスラエルが幼いころ...わたしの子をエジプトから呼び出した...」からの引用
古代イスラエルの民、エジプトに導かれ、そこから**荒野**に呼び出され（出エジプト）、**四十年**忍従の放浪生活を送った

この概念、「**過越の子羊**」、一神のご介入による隷属下からの解放— に関連づけられる
同様に、キリスト、幼少期に**エジプト**に住まわれ、そこから呼び出され、**荒野**で**四十日間**、
断食され、悪魔に打ち勝たれた後、「**過越の小羊**」としての歩み、
一神のご介入による人類の罪の奴隷からの解放— を全うされた

⇒キリスト、すでにイスラエル史で起こった出来事の**象徴的意味**を、ご自分の行為を通して、
ホセアの預言から七百年後に具象化された、すなわち成就された

18節 ラケル、

- ①バビロン捕囚の出発地点「ラマ」から民が奴隷として出立したので泣いている
- ②その六百年後、ベツレヘム境界で殺された子どもたちのために泣いている

エレミヤ書31：15-17 ①の引用箇所

南ユダ王国のバビロン捕囚時、出発点「**ラマ**」（エルサレムの北8km）にはヤコブの最愛の妻
「**ラケル**」（二大部族エフライムとマナセの祖母、ベツレヘムへの途上でお産直後、死亡）の墓があった
ヨシュア記18：25、サムエルの生誕地 サムエル記第一1：19、25：1

⇒預言者エレミヤ、同胞ユダの民が祖国を追われ、異邦人の国へ連れていかれた「捕囚」の
惨めさを、「母の子を失う悲しみ」に託して訴えた
—先祖代々の**嗣業**の地、ついにその住民を失う！—
エレミヤ、ラケルをベツレヘムに関連づけ、慣用的に「**イスラエルの母**」として用いたが、
ヘロデによる男児虐殺で、この預言は成就

【4】エジプトへの逃亡 2：19-22

19-22節 4BCE（2BCE）、ヘロデ大王の死を再び夢で告げられたヨセフ、ヘロデの息子で
悪名高かったアケラオの治めるユダヤを避け、別の息子アンテパスの治める
ガリラヤの町ナザレへ移り、住んだ

⇒ガリラヤに光 イザヤ書9：1-2、：6-7

ヘロデ大王、ベツレヘムの二歳以下の男子虐殺を命じた直後、死亡したとすれば、
キリストはおそらく、一、二歳頃、マリヤの郷里ナザレに移り住んだ

【5】ナザレに帰還 2：23

「**ナザレ人**」：暗示的に「無視された人」の意

1. ナザレは異邦人の地、修辭的表現では「軽蔑」を暗示
2. “**נָצַר**（ヌツアル）”：「枝」「新芽」「芽」
→株から芽を出す新芽 イザヤ書11：1
3. 意図された言葉の遊び、語呂合わせ
「ヌツアル」は母音を変えれば「ナザレ」